

〈学内共同研究報告〉

東京通信大学における情報アクセシビリティに関する研究

加藤 慶・添田 雅宏

Abstract

本稿は、他大学における障害学生支援の取り組みを前提としながら、そもそも通学を必要としないオンラインによる動画配信授業、学びやすい学費設定という本学の強みを活かす検討を行なう一助とすることを目的としたものである。具体的には、本学授業動画への字幕付与の検討、情報アクセシビリティの向上に資する環境整備として物品購入、研修受講とワークショップの開催を行なった。本稿は、その実践の一部を報告するものである。

キーワード：オンライン教育 障害学生支援 情報アクセシビリティ

1. はじめに

オンラインで高等教育を提供する大学では、障害学生支援は通学課程の大学と比較して先駆的に取り組まれてきたテーマである。1969年に認可され、1972年に開学した英国・オープン大学は、従来の社会や教育体制の中で構造的に高等教育から疎外されてきた方々に広く門戸を広げたことで知られている。

日本においては、2013年の障害者差別解消法により、高等教育機関としては障害者への差別的取り扱いが禁止され、合理的配慮の不提供が禁止された。この禁止は国公立大学においては義務化され、私立大学では努力義務とされるが、放送大学においては国費による運営という背景から私立大学ではありながらも義務化されている(広瀬,2018)。

一方、本学の目的は「eラーニング中心の通信教育により、高校卒業後すぐに進学する人だけではなく、多様な生活背景と厳しい環境に直面しながらも、それを克服する意欲ある社会人に対して、勉学の機会を提供し、リカレント教育環境の提供ならびに教育格差の解消の一助となることにより地域と社会に貢献する」ことである。また、大学設置の趣旨として「情報技術の発展を最大限に活かした eラーニング中心の通信教育により、高校卒業後すぐに進学する人だけではなく、多様な生活環境と社会生活上の困難に直面しながらもそれを克服する意欲ある社会人、時間的・空間的・さらには身体的制約によって通学制の大学に通うことが困難な人に対しても勉学の機会を提供し、リカレント教育環境の提供ならびに教育格差の解消の一助となることにより地域と社会に貢献する」ことを掲げている。本学は私立大学であり、障害者差別解消法の努力義務の範疇にあるが、通学を必要としないオンラインによる動画授業、オンラインによる試験の実施といった遠隔教育による本学の仕組みは、従来の教育制度の枠組みの外に置かれてきた多くの障害者や高齢者など、多様な背景を有する方々が学ぶ機会を開くものである。

放送大学や既存の通学課程の大学など、先行する障害学生支援の取り組みの特長を整理すると、(1)すでに入学している学生が障害を有している、もしくはその可能性があり、どう支援していくのか。(2)すでに行われている授業形態や大学キャンパスをいかにユニバーサルデザイン化するか、の二つに分類される。つまり、多様な背景を有する方々に焦点をあ

てて高等教育を提供しようとしたのではなく、すでに行っている「通常」の教育活動の延長線上に結果として、障害者などの方々がいた、という形であるとして整理することができる。

2017年文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」（文部科学省,2017）によれば、全国の大学において障害学生支援として行われている内実は、(1)授業支援、(2)授業以外の支援であるとされる。より具体的にみると、(1)授業支援において最も多くの大学等で実施されているのは「教室内座席配慮」416校（35.2%）、次いで「配慮依頼文書の配付」390校（33.0%）、「実技・実習配慮」306校（25.9%）となっている。(2)授業以外の支援としては、授業以外の支援実施校数は619校（52.4%）であり、最も多くの学校で実施されているのは「専門家によるカウンセリング」386校（32.7%）、次いで「休憩室・治療室の確保等」253校（21.4%）、「対人関係配慮」237校（20.1%）となっている。

以上の二つの点について、本学は通学を必要としないオンラインによる動画授業、オンラインによる試験の実施を行っており、これまで高等教育を受けることが出来なかった学生の方々を受け入れることも可能になると考える。

本稿は、このような他大学における障害学生支援の取り組みを前提としながら、そもそも通学を必要としないオンラインによる動画配信授業、学びやすい学費設定という本学の強みを活かす検討を行なう一助とすることを目的とし、オンライン動画配信授業のユニバーサルデザイン化の検討に資するための研究として、本学の授業動画への字幕付与の検討、ワークショップ開催と環境整備を行なった実践の一部を報告するものである。

2. 放送大学における取り組み

先行する放送大学では、京都大学音声メディア研究室の開発した「音声認識技術を用いた字幕付与支援」技術(<http://sap.ist.i.kyoto-u.ac.jp/jimaku/>)を用いて、授業動画データから字幕作成研究を行っている。また通学課程における障害学生支援では、聴覚障害や学習障害への対応として、近年、UDトーク(<https://udtalk.jp/>)も利用が広がっており、放送大学ではこのUDトークの使用も視野に入れた検討が開始されている(広瀬,2018)。今日では、PCやタブレット端末などにより、容易にepub形式(電子書籍標準規格)のファイルを読み上げさせることもできたため、このような字幕をepub形式によるデータとして提供することで、視覚障害者の高等教育受講も可能となる。本学においては、授業動画のテキストデータ配布や字幕化は行なっていないが、先行事例として参考となるものである。先行事例をもとに、パイロットスタディとして本学の授業動画データからテキストデータの抽出と字幕付与を行なったが、標準装備するには本学のLMSとの調整に時間を要すると考えられた。

3. 環境整備

本学の教育環境における情報アクセシビリティの環境整備を目的として、人間福祉学部には次の機材を導入した。(1)WEBカメラ、(2)タブレットPC、(3)オンライン会議用マイク・スピーカー、(4)アクションカメラ。カメラについては授業動画の作成にあたり、視覚情報として学生に提示することができるように、取材用のカメラとして導入したものである。また、タブレットPCには、覚優位な学生等がスクリーニングなどの際に活用することを想定

し、Google とギャローテッド大学が共同開発した「Live Transcribe(「音声文字変換」)」ソフトをインストールして備えた。

4. 障害学生支援研修の受講とワークショップ開催

2018 年度に開学した本学にとって、障害学生支援の取り組みや知見を蓄積していくことは重要な課題である。そこで、2020 年 2 月 19 日に筑波大学において開催された「障害のある学生に役立つ支援技術の体験型ワークショップ」に参加して、障害学生支援のための筑波大学における取り組みや用いられている支援技術の研修を受けた。また、その研修内容を、本学の教職員に還元することを目的として、2020 年 2 月に学内においてワークショップを開催し、各種支援ツールの活用法を紹介することを通じて理解を深めた。その後、さらに方策を具現化させるワークショップ開催を予定していたが、2020 年 3 月に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が政府より発令されたことに伴い、ワークショップを中止とせざるをえなかった。

5. 今後の課題

本報告は、2020 年 1 月から 2020 年 3 月までの期間に取り組んだものの実践報告である。2020 年 3 月に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が政府より発令されたことによって、中止せざるをえないことが発生した。しかし、障害学生支援の取り組みは、今後も継続させるべきものであり、ワークショップにも多くの本学教職員が参加し、その取り組みの重要性の理解を拡げることができたものとする。本学における取り組みは始まったばかりである。今後、さらに取り組みをすすめていきたいと考える。

付記

本研究は、東京通信大学共同研究費の助成を受けて行われたものである(研究代表者;加藤慶,研究課題;東京通信大学における情報アクセシビリティに関する研究)。2020 年に学内研究成果報告会にて報告した他、2020 年 2 月に学内教職員を対象にワークショップを開催した。ご参加いただいた教職員の皆様に御礼申し上げたい。本研究の実施は共同研究者全員で行い、本稿の執筆は加藤が代表して行った。

写真:人間福祉学部に備えた物品



参考文献

放送大学総合戦略企画室国際連携係(2015)「放送大学における障害者支援に関する取り組み」(<http://id.nii.ac.jp/1146/00008335/>),2021年10月30日接続

広瀬洋子(2018)「放送大学における学習環境のアクセシビリティ:聴覚障害者のための音声認識技術を活用した講義の字幕化」『放送大学研究年報』36,pp.157-162.

文部科学省(2017)「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告(第二次まとめ)」(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/074/gaiyou/1384405.htm),2021年10月30日接続

加藤 慶(かとう けい)

東京通信大学 人間福祉学部 助教

添田 雅宏(そえだ まさひろ)

東京通信大学 人間福祉学部 助教